事故・ケガ報告
※通院の必要があったもの

R2年4月1日～R3年3月31日

種類	件数	%
自傷	2	11.1%
他害	3	16.7%
転倒	3	16.7%
誤飲	0	0.0%
その他	10	55.6%
-	18	#####

事故・ケガ報告詳細

日にち	種類	内容	対応と改善策
		R2年4月	
4月3日	その他	ソファーに座にった際、右足を見せてきたある利用者の爪が割れて少し剥がれそうになっていた。 割れた部分に少し出血も見られていた。 本児痛がる様子無	・消毒をして絆創膏で保護をし、テープで固定を行う ・家族へ事故報告および説明
4月3日	他害	トイレ誘導時、近くにいた他児の首元を引っかく。 直後、本児はその場で横になり泣き出す。 引っかかれた部位を確認すると、3本の引っかかれた跡が赤くなっていた。	・赤みのある部位（後ろ首元）をアイシング →20分間アイシングしし赤み消失 ・本人の爪みの切え無 ・トイレ誘導前より職員が着いたため、事故後は本児の近くに支援員がつく。 ・機嫌悪い時に他害（叩く、蹴る、引っかく）が見られることがあるため、そのような状況下では他児との接近を避けるようにする。
		R2年5月	
5月11日	その他	A君さんと職員がボール遊びをしている近くでB君がソファーで座って遊んでいた。 A君が投げたボールがB君への顔に当たる。	・右側はほぼ近名アイシングする（15分間） ・当たった直後泣声を出していたが、アイシング後は声出しがなかったため様子を見る ・赤み、腫れ無
			・ボールで遊ぶときは付近に人がいないことを確認。 ・遊ぶときは場所を変えるか遊ばないことを徹底する。
5月14日	その他	DVDの時間、A君さんが来色のソファーからTV前のソファーに向かって来ります。 連絡をさいていたB君さんと衝突し、B君はその場に転倒。 本人から「痛い」との訴え有り。右頬を確認すると赤みが多かった。	・ぶつかった右頬を確認し、赤みがったため、アイシングをする。
			・最近、A君さんがDVDを消す行為や、DVDの時間にソファーからソファーへの歩り出し、他児との衝突が多いためDVD時間は来色のソファーを離席する。 ・ソファーとソファーの環境上での他児との衝突が多いため、環境上八ついる3名他の座はスペースの確保をする。 ・急な走り出しに一人では対応できないことがあったため、すぐに声を出し他の支援員に知らせられるようにする。
5月14日	その他	本児とこちょこちょをして遊んでいた。途中、本児と一緒に座ってこちょこちょをし職員の向けになり状態していると注意をされ左頬を叩える様子あり。	・患部をアイシング ・足全体を確認するも痛がる様子見られず ・顔色も変わり見られず、その後も様子観察すると時々つま先立ちで歩行されている時あり ・保護者に説明と謝罪
			・はしゃぎすぎないように声掛け ・疲えさき、痛になる時は足元もひねったりしていないか見ようにする
5月25日	転倒	支援員が離になっていたところ本児が支援員の手をつっぱるもつぎ扱けて後ろに倒れて真ももをついてしまう。 痛いとの訴えある泣き出すことなく患部の確認をし、その後も様子観察をする。	・患部の確認 →腫脹が着くなっていたためアイシングをおこなう ・保護者に状況説明と謝罪
			・手を引かれたら支援員も立ちとがるようにする
5月30日	他害	・本児がパニック状態（おそらく他児の高い声と等程さからくる精神の緊さによるもの） ・その為、全体共スペースから半歩離れた場所で様子を見ていた。（発児の周り出し等による衝突などが予測されるため） →その後、他に職員の指を引っ張り職員の立ち瞬間を噛む ・物理もテンション高めな様子だった。	・本児を静養室へ、他児をサテルーム へ誘導し、互いに落ち着くを待つ ・職員に噛んでは、左頬当の爪と皮膚の間から出血があったため、消毒し絆創膏で固定。 ・歯がたり噛んだりしても痛みは無、しびれ無、受診なし。
			・本児がパニック状態になった際、手が届かない環境で支援を行う。 ・物理支援が付ないようにし、同じケースが利用者間で起きないようにする。
6月15日	その他	職員が本児と遊んでいたところ、本児に身体を開された状態になる。 直後、職員の左胸あたりに本児が乗っかってきた。 本児の重指と小指に噛いしびれあり、本児に謝かん降りてもらう。 その後もしびれがったためクーリングを行う。	・左手、左胸をクーリング ・しばらく左手にしびれがあったため様子を見る →翌日、手の異常見られず ・他の職員が本児に対して優ならないということを口頭で注意説明を行う。
			・職になって遊ばないようにする。また、すぐに動ける体制で支援を行う。 ・いたずらや注意喚起や等危険な行動が見られたときは、すぐに止める声をかける。 ・他職員が近寄ってもらう場合は、その場から離れる。
			・支援後、事故が多発していたため、窓ビア（棚になる、やすべこたちがない段差での支援）について申請共して行かないよう注意。また、他職員も今回よのこんなかったとも周辺として上げられるため、他職員との連携をきちんと行い、今後このような事故が起こらないよう指導を行った。
		R2年7月	
7月29日	その他	多目的室のマットとで過ごしていた。 アンパンマンのおもちゃで遊んでいた際、ローリング収集でおもちゃの上に並び引っ張かって転倒。 泣きれやすかったため、本体は様へ顔部分で支援員と遊んでいた。	・外傷確認→赤み、腫れあり ・アイシングを行う ・保護者へ連絡する
			・アンパンマンおもちゃの本体と顔が取れやすくなっているため、接着をし取れにくくする。
		R2年8月	
8月29日	その他	駐車場でシャボン玉をしていたところ、右側にリュックを着けてあるの生物職員が転倒。 倒れた際に激しい痛と訴えるがいつどこで受けたか不明。 本児後の行動より、ダンスの際に他児が本児のリュックの一部にダンスをしようとしていたので、その時に変傷した可能性が考えられる。 （他児の名は挙げていない） また、本児の爪も伸びており自分で引っかかった可能性も考えられる。	・外傷確認→短い傷と長い傷の2本 ・赤み有り、出血なし、ヒラス腫れあり ・アイシング実施（20分間） →短い傷は赤みが引き目立たなくなる →長い傷は5ミス腫れ止消失したが、赤みが残る ・絆創膏で保護対応（1日1回） →絆創膏を貼り始めた際に「痛い」と訴えていた点は当てはがれる時間がなかった、自分で引っかいたのかも」との声が多かった。 ・傷照時、状況対応説明および謝罪
			・全利用者へつのを短くしてもらうよう文書配布（8/1～） ・他児に対し、ダンス、体操の時にお友達の手を掴んだりしないよう指導
		R2年9月	
9月1日	転倒	本児が保室のソファーから立ちとがり歩行しようとした際、手すりに足を引っかけ転倒する。	・外傷確認→右足首の少し上に赤みと腫れた跡が一本線確でみられた。 ・アイシングして経過観察 →翌日患者もっとりこちらが声かけを行うと歩行はするが、少し「痛い」と訴えがある。 ・絆創膏、少し赤みが薄っていた ・自宅にて本児の前に説明および謝罪 その後、他に電話にて状況説明および謝罪をする
			・支援員の配置換え、危ない立ちとがりを想定した位置を再確認し、職員間でも共有する。
		R2年10月	
10月9日	自傷	玄関や部より出血していることに気付く。 本時点より平安定な状態の様子、また等、足の可辛付けの自傷があった。	・出血元所の確認→自傷により元の皮膚が割れていた ・速指に、カットバン、テープ固定 ・保護者へ謝罪、状況説明を行う。
			・パニックによる自傷行為が出た時はルームシューズ（ソックス）をはかせ対応する。
10月9日	自傷	おやつ後、個人部屋で過ごしていた本児の様子を見ると、部から出血しているのを発見。 自身で噛んだとよう指にになっており、本児も当たって着ていたということも、後の話がとれていた。 本児は時にパニック状態ということもなく、落ち着いた状態であった。	・強口の出血（直接圧迫） →一度はとまるも本児が自分でいじった際に再度出血が見られた為、保護者へ連絡し迎えと受診をお願いした。 ・迎えの際、保護者に状況説明および謝罪を行う。
			・おやつ、昼食時にはかみかわりにも配慮して支援を行う。 ・個人指導から他ば出てきた際のジャングなどにより、前後が着さってしまう等も考慮出来るため、その点も配慮（ジャングに動がある際、本児の立ち回りの確認）をしながら支援する。
10月20日	その他	・横断時の送迎中、交差点左折時にダッシュボードとのパインダーが落下。ハンドルに接触。プレーキを踏むがよまりきれず、信号の書に車体を擦り、停車。	・車内の利用者の外傷確認→外傷無し ・直や損傷確認無し ・後続車有、後退せずハンドルをきり再発進 ・走行確認無し（タイヤの状況により二次被害の恐れ） ・被告なし、送迎の続行及び引き続き連絡員れ ・送迎後、昼タイミングで駐車場に戻ってきたヤナ職員に報告、詳細無し。 ・社屋に掲っていたピンポン社員、統括に報告、詳細無し。 ・部より毎年、ヤナ職員と現場統括と他の写真撮影。 ・次長へ電話報告及び次長、統括と共に車のあるご有宅のご謝罪 ・後日、管理者へ事故報告、謝罪、詳細無し。
			・事故直後の報告、送迎の続行、引き続き連絡等対応が全く出来ていなかった為、送迎マニュアルの見直し。 ・報連相の徹底 ・直接外傷がなくとも、後日症状が現れることもあるので周知し経過観察。
		R2年11月	
1月21日	その他	・学校送迎の為、裏口玄関へ向かう際道に入ったところで河北車のトラックを確認。すれ違う時もＴＳ立ちつ為、危険に思えなければ急な動きがあ、その際、ドリガリと音を確認。駐車場に停め車両後、確認をしたが、特に変化は見られず。 ・送迎後、利用者様を降ろす為、玄関入口の方に集まり、タイヤに異常なく、全利用者がったあ、送迎を続けていく。その後も走行に異常なし。発生時、利用者は乗車していなかった。	・ピンポン着後、統括・管理者へ報告し車の確認 ・車の物損箇所の撮影 ・バンパーやれの跡確
			・運転技術が不十分であることを自覚し、無理な走行はしない。 ・運転が難しそう時おれる際に入る前に、対向車の有無を確認して、対向車がいる場合は道路への侵入を待つ。
		R2年12月	
3月23日	他害	・おやつ時に他児数名がパニックになり、泣き声を聞いた本児もおやつを食べ終えてから落ち着かない様子が見られていた。昼寝の時間になり、職員が昼寝の準備をパニックになっている児童の対応を行っている際、本児も泣声にパニックになり、約3メートル離れた場所で調整準備をしていたボランティアの背中に噛みけく、当時ボランティアは背中を来児の方に向けて準備をしていた。	・噛まれた箇所の確認、赤みがあったが、アイシングする程ではないため本人の自ちから経過観察を行う。 ・本児が落ち着くまで原因と思われる他児を本児から離し、接児的距離にならないようにする。
			・今後もボランティアが支援にえることが予想される、その際は、重症にパニックになった利用者に対しての対応や近くに他児を近づかせないことなどを事前に伝える、また、他児の恐れがある児童についても事前に伝える
3月25日	その他	・本児がおもちゃ箱の様収類を置いている箱周辺に立ちて自由をするようかかりもうこうけてしまう、支援員はマンションでついており、本児はヘッドギアを着用していた。観るから本児の機嫌が悪かった、支援員がその原因に気づいてあげることが出来ていなかった。また、提供案や電話といった本児が求めているのが、おもちゃ箱付近に置集していた。	・赤みが出ていた為、アイシングを入眠前後で計45分間行い、腫れが無いことを確認。赤みは多少残っていたが、特に痛みや腫れを訴えられるが、入眠後も様子観察を行う。 ・保護者へ状況説明及び一緒に患部の確認、謝罪を行う。
			・おもちゃ箱の縁に緩衝材の設置 ・提供案、電話の置き場所の変更
3月26日	転倒	・ルーム内中央より、多目的室へ向かって本児が走り出すと同時に、手洗の目付近に座っていた他児が立ち伸ばす。本児はその足に躓き、頭部を壁や転倒する。泣り出しるよ訴られる出来に支援員はいなかった。	・本児の転倒の外傷確認、右額に少しの赤み及び本児か本児の転倒る外傷確認、アイシング（約5分間）にて後消失、今後も経過観察を行う。 ・他児の足首の外傷確認→外傷なし ・保護者へ謝罪及び説明
			・ルーム内では歩いて移動することを本児と確認するルーム内の環境整備や利用者の職線上に人が居住しないように配める。